

グループ登山の心得

“メンバーの安全を守るために”

四季山遊会の山行は、リーダーとメンバー10名～20名程度で実施するグループ登山です。リーダー、メンバーの信頼関係なくして山行中のグループの安全確保はできません。グループ登山を安全に実施するためにリーダーとメンバーは、「話し合い、助け合い、分かち合う仲間」として、それぞれの役割を認識し尊重することが大切です。リーダーの役割、メンバーの役割について確認しておきましょう。

1. リーダー

四季山遊会のリーダーは、特別な教育を受けたプロではありません。それぞれの経験をもとに試行錯誤しながら安全を第一に考え企画を実施しています。企画によっては、事務局や他のリーダーと意見交換することも必要です。山行の際、安全確保に努めることはもちろんですが、山行後に、企画報告をすることで情報共有し、企画を安全に実施するための手立てを検討することが大切です。その日のヒヤリハットがアクシデントにつながらないように、リーダーは、一つ一つの事例を次の企画に活かしていくようにしましょう。

➤ 事前準備

- ・企画ランクを明確にする
- ・危険箇所ほか企画実施に必要な情報収集
- ・メンバーの選定(参加に無理があると判断した場合断る決断)
- ・アクシデントの想定と対処法の検討

➤ 山行中

- ・メンバーの体調観察
- ・危険箇所での注意とアドバイス
- ・アクシデントに遭遇した場合の判断

➤ 山行後

- ・ヒヤリハットの報告と今後の対策検討

2. メンバー

メンバーシップの基本は、メンバー一人一人が登山者として自分の行動に責任を持つことから始まります。

ルートの確認、アクシデントに対する対応など、すべてをリーダーに任せ、ただついていくだけの登山は、ひとりはぐれてしまったときやリーダーにトラブルがあったとき、本人が困るだけでなくグループ全体を危険にさらすこととなります。受け身ばかりの登山では自分のレベルアップにもつながりません。メンバー一人一人が意識の高い登山者になれば、事故を未然に防ぐことにつながります。また、四季山遊会のメンバーは一人一人がアシスタントサポーターでもあります。グループの一員として全員で協力して安全登山に努めましょう。

- 事前準備
 - ・企画書に目を通し情報収集
(不明な点があれば事前に質問する・情報提供する)
 - ・体調管理とトレーニング
- 山行中
 - ・危険箇所ではリーダーの指示に従う
 - ・地形図を見て現在地確認
 - ・周囲のメンバーの行動に気を配る
 - ・危険箇所での声掛け
- 山行後
 - ・山行で気づいたことなど、意見や要望を事務局に伝える

“一人はみんなのために、みんなは一人のために”